途中出場リーチ 劣勢覆す

途中出場の機会は突然、巡って きた。主将のリーチは前半30分、 ナンバー8マフィの負傷により、 ピッチに立った。「インパクトを残 すことを意識した。ボールキャリ ー(突進)でもタックルでも、ガン 本のタックル全てを成功。 開幕戦 の不振がウソのように、輝きを取 り戻した。 ▼杯3大会目、2戦目にして、 初めて先発から外れた。ジョセフ ヘッドコーチ(HC)との1対1の 面談で「今週(アイルランド戦)、出 ないぞと。どストレートに言われ た」。開幕のロシア戦で納得がい くプレーができなかったから、指 陣官の決断を素直に受け入れた。

ただ、積極的な姿勢だけは崩さ

ないと心に決めた。アクシデント で得た出番。思い

をプレーで示す。 攻守ともぐいぐい と前へ出て、3-比と劣勢だったチ

ムに推進力を与えた。

精神面でも、リーチは周囲を鼓 を終えた後。 「早く引き揚げる ぞ」と大きな声をかけた。「アイ ルランドの選手はハーフタイムに 相手より早く控室に戻る。 (地方 きびした動作で、相手にプレッシ **ャーをかける。 俺たちが逆にプレ** ッシャーをかけてやろうと」。後 半、形勢は逆転した。アイルラン ドの単調な攻めを、リーチを中心 に粘り強い防御ではね返した。

「思ったより早い投入だった が、今、思えば良かった。入って チームの自信が高まった」。ジョ セフHCは改めてリーチの存在感

「強い日本を見せると、ずっと 言ってきた。よくできたと思う」 とリーチ。頼りになる主将が帰っ てきた。 (細田城11)

> った。しかし、「その後、動きが止」とシュミット監督。自庫での反則 に詰め寄られて前半を折り返すと、 アイルランドは序軸に立て結び

ドの選手たちは試合後は花道を作り

アイルラン

トンガ アルゼンチンに力負け 苦戦する太平洋諸島のチーム

ラウンドを出る日本の選手たちを拍手で送り出 、ラグビーのノーサイド精神を体現。シュミット 暦は「集中していてすばらしかった。封じること グラウンドを出る日本の選手たちを拍し、ラグビーのノーサイド精神を体現。 開督は「集中していてすばらしかった。 は難しかった」と日本をたたえた。

難しかった 自陣の反則響 4 1 N

2

الك

アイルラン

(柳阳瀬)

がかかるキックが続いた。だ 「勝つことを信じて、準備 た。前半3分に約45万0長いア 1Gで計址得点を挙げ、チーム を勝利に導いた。「まだり試合 ある。そして準々決勝も準決勝 も、決勝もある。 そこを目指し 自信あふれる顔が戻 ひな。



田村「全てプラン通り」

突進するリーチ(中央)。左隣はトンプソン、右端は具智元=江口和貴張彫

- ルを持つ時間を長くする

ため、相手のDFラインの裏に 蹴るキックは減らした。ボール

を受ければ左右に展開し、暑さ

決して偶然の勝利ではない。 司令塔の田村は「全部がプラン 通りだった」と誇った。格上の 相手に対し、ボール保持率は引 %と互角以上の数字だった。



振り回し、反則を誘った。少な い得点機を確実に生かすべく、 多少距離があっても構わずにP Gを狙った。 初戦のロシア戦は「緊張で死

にそうだった」。この日も重圧 してきた」と、動揺しなかっ Gを成功させるなど、4PGと MSVI °

Sopyright The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission. すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。 掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

このW杯に出場したトンガ

0

ばるプロ選手の2割が、これらの島々にルーツを持つとも 言われる。ただ、代表チーム

に限れば、そのポアンツャル

030-10% 10月3日 10月9日 034-9% (BP) 獲得。勝ち点が並んだ際の順位は、 次いで得失点差による 10月5日 10月12日 9 -34 サモア アイルランド スコットランド 〇19—12 10月13日 ○27-3※ 10月9日 9月30日 10月3日 • スコットランド 4 10月13日 (***) サモア 3 10月5日 11 ロジア 5 ●10-30 11 田本 ※はボーナスポイント(ム間の直接対決の成績、 アイルランド 2 P00L

勝ち点 の 0 0 10 0

ロシア

大会最多のトライ

ENDER SOME THINK 南アフリカはいずれも今 大会最多となるのトライ、 引得点で快勝。 地力の差を 見せつけた。

エラスムス監督は記者会 見で、試合の話はそこそ こに、アイルランドを破っ た日本に繰り返し言及し た。湿度の高さに注目し

ルで止めるトンガのピウタウアルゼンチンの突進をタック



「大会前にできた練習は10週 代表は、主に欧州など海外を 拠点にする選手で構成され、 間だけ」とケフ監督は嘆く。 日本代表にもトンガ出身者が 5人、サモア出身者が1人い 背景にあるのは、これらの 島国が抱える財政基盤のもろ い。活躍の場と高給を求めて 人材が海外へ揺出している。

一の勝利だ。

したのが確一

「技術とコミュニケーション の不足」と厳しく総括した。 12-28で力負け。ケフ監督は

トンガが、アルゼンチンに

7月25 28—12 125

フィジー、サモアも加えた - が「国技」。世界中に散ら

太平洋諸島の国々ではラグビ

話した。 優れた才能を生み出すがゆ え、代表チームの強化が進ま ないという矛盾を抱えている。(有田勝一)

10 \$100 710 710 2 ②南アフリカ 3ニュージーランド コイタリア 47T

「ボールが得りやすい。日

本はその環境に慣れてい

る。アイルランドがキック

中心になったのに比べ、日

本は最後までしっかりとボ

ールを回していた」と分

析。準々決勝で対戦する可

能性が出てきたことにも触

れて「ちょっと作いな」と

①イングランド ②アルゼンチン

③フランス あトンガ

田米(母)

⑥ナミビア